

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	コミュニケア24 浦安いまがわ館
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	千葉県浦安市今川2-13-10
記入者名 (管理者)	各務 由美子
記入日	平成 21年 2月 29日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	『地域に溶け込んだ生活』『普段の暮らしの継続』を目指す理念をつくりあげている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ホーム内の各所に掲示したり、定例会などで理念を確認し合いながら実践しており、ケアの振り返りとしても活用している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	運営推進会議で集まって頂いたご家族や、地域の方々に理念について説明し、浸透を図っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩に出かける時など気軽に挨拶をしたり、立ち話をするなど日常のお付き合いをしている。職員は利用者と隣近所の方が気軽に会話できるよう努めており、隣近所の方から声をかけて下さる機会も多い。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	市社協主催、自治会員が中心で行なっている『今川ふれあい広場』や、地域サークルに参加したり、日常的に交流している。お祭りや敬老会などの行事には必ず参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	浦安市、市内の地域密着型サービス事業所と協力して地域に役立つことはないか相談したり、出前講座を開催して認知症ケアについて勉強会を行っている。	○	利用者と散歩に出かけた時にゴミを拾ったり、外出機会が多いことを活かして防犯活動に参加するなど、密着した地域貢献にも取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年自己評価及び外部評価に積極的に取り組み、定例会で具体的な改善策を話し合っている。職員の振り返りや気付きの為に、最大限活かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や参加者の皆様から多くの意見を頂き、服薬や研修、地域交流など運営推進会議で話し合った意見をサービス向上に取り入れ、活かしている。運営推進会議で話し合うテーマを評価内容から抜粋して活用している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービス事業者連絡会、介護サービス事業者協議会などが定期的な話し合いの機会となっている。浦安市との連携により、他サービス事業所間との交流ができることで視野を広げた取り組みが可能となっている。	○	現状にとどまらず、継続して連携をとりながら更なるサービスの質の向上や、活動を広げていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用している方がいる。定期的に定例会で勉強会を行っており、学ぶ機会を持っている。	○	社会福祉協議会へ協力を仰ぎ、外部関係者を講師として招き、勉強会を行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において虐待は度々テーマとして取り上げられ、学んでおり、徹底した防止に努めている。日々の業務の中で虐待が起こらないよう職員同士で注意を払っている。	○	外部関係者を講師として招き、勉強会を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明、アセスメントを経て、契約となるが、まずは短期体験利用期間を設け、サービスの実際をみて判断いただいている。また、契約の際には本部担当者の出席も求め、書面の読み合わせをし、一項目ごとに懇切丁寧にご理解、ご納得を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から不満や苦情があった場合は、申し送りや定例会などで職員全員が把握するよう努め、改善に向けて努力している。また、介護相談員が月に一度訪問し、外部者へ思いを伝えられる機会となっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、日々の個人記録、モニタリング、お預かり金精算書、便り、写真、行事予定、結果などを郵送している。状態の変化があった場合や事故発生時など必要に応じて随時電話連絡を行っており、ご家族様来館時には職員が近況を伝えている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のご家族様アンケートをもとに運営推進会議で話し合い、外部者へ伝わるよう努め、改善に向けた努力をしている。苦情やご意見を頂いた際には、申し送りや定例会などで周知し、職員全員で改善に向けて取り組んでいる。	○ 外部評価だけではなく、グループホームでアンケートを作成し、言いにくい思いを汲み取り、改善していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会による全体会議やユニット別の話し合い、社員会議など定期的に意見や提案を出せる機会を設け、意見交換しながら運営に活かしている。職員個々に話を聴く機会を作り、一人ひとりの職員の思いを聴き、反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個別に行きたい場所へ出かける時や、外出時など柔軟に勤務を調整しながら支援しており、利用者や家族の要望に添えるよう対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に努めており、異動後にも交流できる機会を作るなど配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時に本社にて新人研修を5日間実施。各職員の段階に応じて毎月勉強会を兼ねた会議へ参加している。外部研修へも積極的に参加できるよう研修費の補助を行っている。私情により外部研修へ参加できない職員へも定例会で勉強会を行っており、学ぶ機会を設けている。</p>	<p>○ 内部研修を充実させていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>「地域密着型サービス事業者連絡会」により他事業所との交流や話し合いの機会がある。また、各事業所職員が他施設へ実習に出向き、職員同士が交流し質を向上させている。</p>	<p>○ 継続して職員同士の交流の場を持てるよう働きかけていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレス軽減の為、休日や休憩時間を確保する努力をしている。職員一人ひとりの話に傾聴する時間を作り、思いを受け止めている。</p>	<p>○ 休憩室が事務所の隣にあり、気軽に話せる環境である反面、ゆっくりと一人になれる場がないことが課題。ゆっくりできる環境であるよう配慮していきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>月に一度、ヒアリングを行い管理者と面談し、事業所の状況を把握するよう努めている。管理者は職員全員と個人面談を行う機会を作り、職員の思いや努力を聞き取り応援するよう努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約以前にご本人、ご家族から不安なことやどう生活していきたいのかなど詳しく聴く機会をつくり、安心してグループホームへ入居できるよう努めている。</p>	<p>○ 他職種の職員が立会った上でアセスメントを行い、色々な視点でご本人やご家族の思いを聴いていきたい。ご自宅や施設または病院へ出向き現在暮らしている環境を把握することもアセスメントとして取り入れていく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けた時点では、必ず他の施設なども見ていただくよう勧め、ご家族の不安点、求めている点を伺い、いまがわ館として出来ることできないことを表明している。</p>	<p>○ 各過程で職員の紹介などを入れ、より皆で受け止めている姿勢をみせ安心感を持って頂ける様にしていきたい。また、そこで深い信頼関係を生むきっかけにしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例えば、戸外への徘徊がある利用者においてGPS位置情報検索システムを勧めたり、必要と見られる医療機関を勧めたりしたことがある。緊急入所などの場合、必要な支援の見極めが十分でないこともあるが、その場合でもご家族から、生活歴や既往、日常の様子などの情報をセンター方式のシートに記入していただき、対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急入所した利用者以外については、まず短期入所契約をしていただき、馴染んでいただける可能性を見極めていただき、本契約に移行する方法をとっている。難しいと判断された場合でも、入所当初にご家族の頻繁な来訪や週に何日か帰宅するなどをお願いし、馴染みやすい環境を整備するように心掛けている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活をしている家族のような気持ちで接し、お互いに支えあいながら介護を行うようにしている。料理や裁縫を教わるなど学ぶ機会も多い。	○	ご本人の得意な事が生かせる場面をさらに作っていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	モニタリングを行う際にはご家族にも出席していただき、最近の状態を報告するとともに、ケアについてご本人や職員と共に相談しながらケアプランを作成するなど一方的ではない関わりをもっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出レクへお誘いしてご家族も一緒に出かけたり、グループホームで行うクリスマス会やバーベキューなどの行事に参加して頂くなど関わりやすい環境を作るよう積極的に支援している。遠方の場合にも、手紙を書いたり電話をするなどの機会をつくっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から通っていたサークル活動を続けられるよう支援したり、手紙を出すなど友人関係が途絶えないよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に立ち、コミュニケーションがとりやすいよう関わっている。食事作りや外出時など、お互いに協力するなど支え合う場面がある。	○	気の合わない方同士に距離をつくるばかりでなく、お互いに認め合える場面づくりに力を入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も、本人や家族に差し支えなくお許しがある限りは、支援を続けて行きたいと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングの実施により、利用者の意向をそのつど確認するよう努めている。また日常生活の中でもご本人に問いかけ、できる限り意向を汲み取る機会をつくるよう心掛けている。	○	センター方式の勉強会を行い、より充実した思いを共有していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、生活歴や暮らし方の把握に努めている。	○	ご本人やご家族から話を伺い情報を更に充実させ、センター方式を有効活用できるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各職員が日常で新たに気付いたことは速やかに伝え合うようにしている。また担当者制によって更に細やかな把握に努めている。定期的に行われるモニタリングの際も、各職員の気付きを報告しあうことにより把握に努めている。	○	各利用者の状況の変化に十分対応できるように、また把握の困難な利用者に対する観察力を高めるために、外部研修への参加や勉強会の実施等をすすめていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的な実施されているケアカンファレンスでご本人、ご家族、職員や看護師の意見が反映された介護計画の作成を行っている。	○	継続してご家族の参加を仰ぐと共に、医療関係者の参加も可能な限り実現させたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しとともに、状況の変化に応じてご本人、ご家族の意向を伺いながら、介護計画の見直しが実施されている。	○	状況の変化の大小に関わらず、状況に沿った介護計画の見直しが速やかに行われるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践や様子を記録し、情報を共有している。気づきや体調の変化などは特記事項欄を活用して分かりやすくしている。	○	介護計画の見直しには活かさきれておらず、情報の共有を充実させたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「ボランティアセンター」との共働(望むボランティアを頼んだり、ボランティア研修を受け入れたりしている)、今川自治会、今川地区老人会(麻雀に常時参加)、警察、消防(救命救急講習、避難訓練指導)、とも(障害者支援施設)、地区社協、富岡公民館、図書館などの協力を仰いでいる。	○	念願であった今川自治会とコネクションができ、連携して行える活動を模索していきたい。また、防災訓練等に地域住民の協力を仰いでいきたい。更に、今川学園(保育園)、新浦安教会(クリスマスコンサート)については、交流が中座している為、再度協力を仰ぐよう折衝したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの活用や図書館の利用を行なっている。警察は離設者の対応や防犯、消防は防災訓練や救急救命講習などでご協力を頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	GHであり、介護保険上の他のサービスの利用は限定されているが、インフォーマルなサービスの活用を始め、医療保険上のサービス、福祉機器の購入などのサービスについて他のサービス事業者と話し合い、利用している。また、運営推進会議の場などを通し、地域包括センターのケアマネジャーなどに協力を仰いでいる。	○	更に、インフォーマルなサービスを充実させ、ご利用者の新しいなじみ作りを支援して行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等を通じて、意見を交換し協働する体制をとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則的に、提携先医療機関を紹介しているが、必要に応じて他の医療機関へ変更する支援を行える体制にしている。医療上大きな変化があった場合は、本人、ご家族、主治医、いまがわ館スタッフが集まって、意見交換し、情報を共有する体制を築いている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診時に立ち会い日常生活の様子を伝え、病状の説明や生活指導を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員2名(1Fと共通)を抱え、かつ提携先医療機関とのオンコール体制を有し、協働体制を確保して支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、医療機関、ご家族、施設スタッフ(看護師含む)を交えて、安心して過ごせるよう話し合うと共に、入院中は洗濯や消耗品補充などを受け持ち、かつご家族との面談、スタッフの来院などによって情報を集め、早期退院を支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の意見を聞き、ご家族・医療機関を含めて話し合い「看取りの同意書」を作成している。また、必要に応じて、改めて同意書を取り交わす体制も有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	24時間看護が必要な場合は、訪問看護などの協力を得る必要があるが、提携医療機関(主治医)が重度化利用者の支援に積極的であり、いまがわ館としては最大限努力を払って受け入れていく考えである。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院を含め、関係者による話し合いを行い、いまがわ館からはご家族了解の下、必要なすべての情報を提供する用意が出来ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳やプライバシーを損ねるような言葉掛けや記録などがな いよう職員同士が注意するよう心がけている。個人情報については、 保護規定を設けており、スタッフに対しても雇用契約で個人情報の 保護を規定している。	○ 慣れにより失礼な態度や言葉かけが発生しないよう、注 意していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で 決めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	「おしるこの会」を開いてほしいという希望があれば開催したり、外へ 食べに行きたいとの言葉に出かけたり、ご本人の希望に添った支 援を大切にしている。希望が出ない場合には、選択肢を設け選んで 頂くなどご自分で思いを表せるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日をど のように過ごしたいか、希望にそって支援して いる	起床時刻、就寝時刻など決めず利用者のペースに合わせた介助を 行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている	お化粧が習慣になっている方には継続できるように支援したり、美容 室でのカットを望む方には送迎をして支援するなど、日常的に身だ しなみに気を配れるよう努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者の力に応じて調理に参加して頂いたり、片付けを職員と 一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ 等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせ て日常的に楽しめるよう支援している	ビールの好きな方の希望に応じている。時には「飲みに行きたい」と の希望により夕食時に出かけビールを飲みに行けるよう支援してい る。おやつを買いに出かけ好みのものを選んで頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の力によりハビリパンツを使用したり、日中は綿下着を使用するなど気持ちよく排泄できるよう支援している。失敗に傷つかないようにさりげなく支援している。	○	排泄パターンを把握しきれていないため、排泄チェック表を活用しパターンを把握する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい時間帯を個々に把握し、概ねその希望に添うように入浴の声かけをしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣はご家族から伺い把握しており、その方に合わせた支援をしており、その日の体調や疲労の様子を見て入床を促している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好みや適性に応じて家事の役割を持って頂いている。特技など力が発揮できるよう支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力に応じて所持しているお金からご自分で支払って買い物をしたり、美容室での支払いをしている。	○	お金を支払う場面を増やせるように支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に庭先でコーヒーを飲みながらくつろいだり、散歩に出かけるなどなるべく閉じこもらない生活を心がけている。	○	お一人での外出が困難な方への支援が不十分であり、日常的に外出できるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族からの希望でお墓参りに出かけたり、外出レクにも参加して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり、友人から届いた手紙の返事を出すなど、関係が途切れないよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来館時には職員から声をかけ、居心地良く過ごして頂けるように働きかけている。時には食堂で他のご利用者様と交流できるきっかけを作るなどしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を中心に、言葉や態度による拘束などもなくすように努めている。職員全員が拘束3原則を理解し、実践出来るように外部研修、勉強会等で拘束撤廃の意識を確認し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は利用者が自由に行き来で、来訪者が自由に訪れることが出来る様に施錠していない。居室には、鍵がつけられているが、利用者管理に任せている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	センサーなどの機械力も活用しながら、気を配り、見守りしているが、気付かないうちに外出されたりすることもある。	○	利用者様がその日着ていた物、持ち物を把握していたり、車椅子の利用者様が角を曲がれなかったりして困っている時等、些細な事でも気付き、配慮出来るよう努めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	嗜好品の自己管理が難しい場合には、1度職員側で預かり希望に応じてお出ししている。また、入歯洗浄剤の管理が難しい場合も、使用の都度、一緒に洗浄している。	○	やむを得ず職員管理している所があるので、出来る限りご利用者様に添った対応をしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定例会や勉強会にて話し合いをしているほか、外部研修などにより知識を習得している。また、転倒事故、誤薬・服薬ミスに対する対処法などを含めマニュアル化している。	○	利用者様が常に一定ではなく、いつ何が起こるかという危機感、緊張感を持ち、事故防止の為の知識習得、心構えを推進し、共有していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が救急救命講習を受講している(2年1度)。また、定例会や勉強会等に対応訓練を実施している。緊急時のマニュアルも作成している。夜間の事故に対応するため、1・2Fの夜勤者が連携が取れるよう夜勤者会議を適宜実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に一回、職員及びご利用者様参加での避難訓練を行っている。又、運営推進会議への報告も行なっている。昨年は、夜間想定での避難訓練も実施した。	○	地震等の広域大規模災害についての対応を考えたい。また、地域住民の協力を仰いだ避難訓練も実施したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて細かな説明と十分な相談を行っている。状態の変化があった場合にはその都度話し合い、その方らしい生活の継続について相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタルチェックのほか、常に意識し、ちょっとした変化でも気付けるよう努力している。また、看護師も含め密に申し送りを行ない情報を享有し、必要な場合は迅速に対応している。	○	小さな異変でも見つける『目』を、スタッフ一人一人が持つように努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者毎の薬剤情報表、服薬チェック表(配薬・服薬)を用い、安全な服薬支援をしている。また、仮に服薬事故が生じた場合にも、対処できるよう、服薬事故マニュアルも作成している。	○	処方変更があった際には職員皆が把握出来るよう申し送りノートを活用しすぐに確認出来る様努めていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	身体を動かす働きかけや食後のトイレ誘導を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアを習慣にしている。週に1回の訪問歯科にて相談や助言をいただいて適宜対応して。	○	口腔ケア体操などを取り入れながら、本人や職員に更に口腔ケアの重要性を再認識して貰えるように働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養不十分な方へは補食を用意したり、エンシユアキッドによって補っている。水分補給の進まない方へは好きな飲み物、容器、時間帯など把握し、すすめている。必要に応じて一日の水分摂取量を記録し、把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入所時、感染症の有無を確認している。施設マニュアルを基に、定例会や勉強会等で話し合うようにしている。ノロウイルス対策セットの設置、インフルエンザの予防接種も毎年受けて頂いている。流行時期には、外来者向けに、足拭き、マスク、アルコール消毒薬等を設置している。	○	外来者への対応が十分でないため、有効な手段を考えて行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	社内で、衛生巡回指導が定期的に行われ、衛生管理意識を高めるようにしている。調理用具については常に衛生を心掛け、最低でも一日に一回は塩素消毒を行なっている。賞味期限の厳守、冷蔵庫の整理も意識し行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭が駐車スペースとなっているため限界があるが、入り口付近などに花壇を設けている。また、玄関前の坂が急になっているので手摺りをつけたり、鏡の設置をして、安全に配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に”利用者様の家”を心掛け、ゆっくりと落ち着いた雰囲気作りや会話をし、季節の花を活けたり、季節の行事を演出するなど、配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子とテーブルやソファを置き、一人でゆっくり過ごしたり、何人かで座って雑談できるよう配慮している。	○	他の方達と離れて過ごしたい時にお一人でくつろいだり、顔を合わせた利用者同士で雑談していたり、自然なコミュニケーションの場となっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や昔の写真を持ち込んで頂き、できるだけご本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夜間から早朝にかけての居室の温度調節に気を配っている。また、居室にトイレが併設されているため、換気には気をつけている。	○	温度調節に配慮しながら換気を心がけたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、段差のない滑りにくい床、また適宜福祉用具を活用(杖など)して自立した生活を目指している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者によって居室の扉に表札を設け、混乱を防いでいる。ポットの操作方法が分かるようにシールを貼り、一人でお茶を入れられるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にベンチを置いて座ったり、花壇を作り花を見て楽しむことができるようにしている。コーヒータイムやバーベキュー、ランチなど気軽に活用し交流の場として活かしている。	○	ご近所の方が気軽に参加できるよう働きかけていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一日の生活の流れ、一年の季節の流れなど、リズムやめりはりの実感ができる生活を大切にしています。日々の「気付き」を大切にしながら、ご利用者様やご家族との話し合いを通じてできるだけご希望に添った生活が送れるよう支援しています。「バリデーション」や「学習療法」など認知症ケアについて専門性を高めながら、日々の認知症ケアに生かせるよう努めています。また、グループホームで暮らす楽しさ、頼もしさ、仲間と暮らしているという思いを持って頂けるよう、様々な催し物を工夫して行っていきます。いつも笑い声が聞こえる温かい「家」であることをいつまでも大切にしていきたいです。